

平成 20 年度は、平成 18 年秋頃より火口周辺を中心とした山体膨張が観測されている十勝岳，および 9 月末から地震活動が活発となり 11 月に小噴火した雌阿寒岳に重点をおいて現地観測を行なった。

8. 5. 1 有珠山

(担当)：田村 慎・荻野 激

有珠山の火山現地観測は、西山火口群の熱観測，金比羅山火口の水質調査および山頂火口原 I 火口周辺での噴気温度測定を実施した。

I 火口周辺の噴気温度は 437℃と熱活動に大きな変化は見られなかった。一方，西山 N-B 火口の温度は数年来 150℃前後を記録していたが、11 月の調査では約 80℃と温度低下の傾向が見られた。

8. 5. 2 樽前山

(担当)：村山泰司・田村 慎・柴田智郎・石丸 聡

樽前山の現地観測は、A 火口および B 噴気地帯での温度観測，火山ガス採取，山麓部での地下水位および水質観測を実施した。

噴気温度は A 火口で約 600℃，B 噴気地帯で約 350℃であり，熱活動のレベルは高い状態のまま推移している。また，山麓の錦多峰川源流および温泉沢の水質に大きな変化はみられなかった。

8. 5. 3 駒ヶ岳

(担当)：田村 慎・荻野 激・石丸 聡

駒ヶ岳の現地観測は，山頂火口原での火口温度観測，山麓での水質および地下水位観測を実施した。また，山麓部の 2 箇所 GPS 連続観測を実施している。

昭和 4 年火口および 96 南火口列では，全体として噴気が非常に少ない状態が続き，熱活動に大きな変化はみられなかった。また，山麓の駒の湯，トドメキ温泉，留の湯の水質にも大きな変化はみられなかった。

8. 5. 4 十勝岳

(担当)：岡崎紀俊・村山泰司・石丸 聡・田村 慎・柴田智郎

十勝岳の現地観測は 62-0，62-I 火口周辺での地温連続観測，62-II 火口での火口温度観測，大正火口での火山ガス採取，山麓温泉・湧水の水質観測および地下水位観測を実施した。また，前十勝および十勝岳中腹の 2 箇所 GPS 連続観測を実施している。

GPS 連続観測の結果，前十勝に設置している観測点では，平成 18 年秋頃より膨張傾向を示す地殻変動が継続している。しかし，62-0 および I 火口で実施している地温連続観測の記録には，特異な温度上昇はみられなかった。大正火口の火山ガスでは， $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比に平成 19 年からの増加傾向が認められる。硫黄化合物の総濃度は，1988 年噴火前の 62-I 火口で観測されたほどの濃度には達していない。山麓温泉の組成・温度に特別な変化は認められなかった。

火口周辺を中心とした山体膨張の原因を解明するため，10 月に北海道大学，札幌管区气象台および気象庁女満別地磁気観測所と共同で GPS，重力，地磁気，土壌ガスなどの集中観測を実施した。

8. 5. 5 雌阿寒岳

(担当)：石丸 聡・岡崎紀俊・村山泰司・田村 慎・柴田智郎・秋田藤夫

雌阿寒岳の現地観測は，ポンマチネシリ・中マチネシリ火口および 2006 年 3 月の小噴火により形成された北西斜面噴気孔列で実施した。調査項目は温度観測，火山ガス採取，山麓部での水質観測などであ